



# 5 インストール 完了後の作業

---

管理ユーティリティのインストール方法、ネットワーク上のPCのセットアップ方法などインストールを完了した後に行う作業について説明しています。これらの作業は運用中にも確認が必要となる場合があります。

# 管理ユーティリティのインストール

添付の「EXPRESSBUILDER」DVDには、Express5800シリーズ管理用の「ESMPRO/ServerManager」などが収録されています。これらの管理ユーティリティをExpress5800/ftサーバ、またはExpress5800/ftサーバを管理するコンピュータ(管理PC)にインストール・セットアップしてください。

VMware監視用の「ESMPRO/ServerAgent」は添付されておりませんので、「ESMPRO/ServerAgent for VMware」製品をご購入して頂く必要があります。

## ESMPRO/ServerAgent

ESMPRO/ServerAgentは、Express5800/ftサーバのハードウェア、ソフトウェアの稼動状況、構成情報、障害発生状況を監視するためのユーティリティです。何らかの異常を検出するとESMPRO/ServerManagerをインストールしたコンピュータへ通報を行います。

ESMPRO/ServerAgentは、お客様にてインストールを行なう必要があります。インストールの手順については「ESMPRO/ServerAgent for VMware」のCD-ROMに格納されているインストールガイド(/doc/esmsa\_inst.pdf)および、「ftサーバ向けインストールガイド(/doc/esmsa\_ft-inst.pdf)を参照してください。また、ESMPRO/ServerAgentが動作するためにはお客様の環境に応じて設定を行う必要がありますので、「ESMPRO/ServerAgent for VMware」のCD-ROMに格納されているユーザズガイド(/doc/esmsa\_users.pdf)を参照してください。



Express5800/ftサーバを連続稼働させるには必ず必要であるためインストールされていることを確認してください。

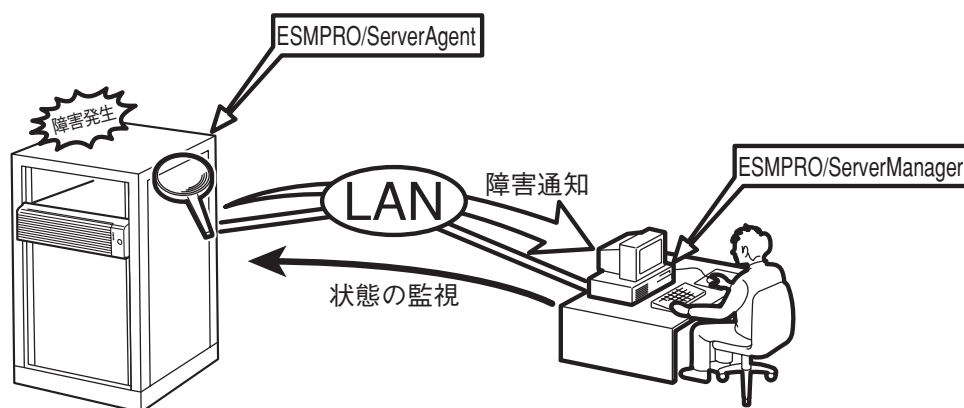
## 動作環境

ESMPRO/ServerAgentを動作させることができるハードウェア／ソフトウェア環境は次の通りです。

- **ハードウェア**
  - － インストールする装置  
Express5800/ftサーバ本体
- **ソフトウェア**
  - － ESMPRO/ServerAgent for VMware

# ESMPRO/ServerManager

Express5800/ftサーバにインストールされたESMPRO/ServerAgentと連携して、Express5800/ftサーバの状態の監視や障害通知の受信をします。



また、ESMPRO/ServerManagerはExpress5800/ftサーバ内の故障したモジュールを交換する際に本体からの論理的なモジュールの切り離しや交換後の論理的な組み込みを操作することができます。

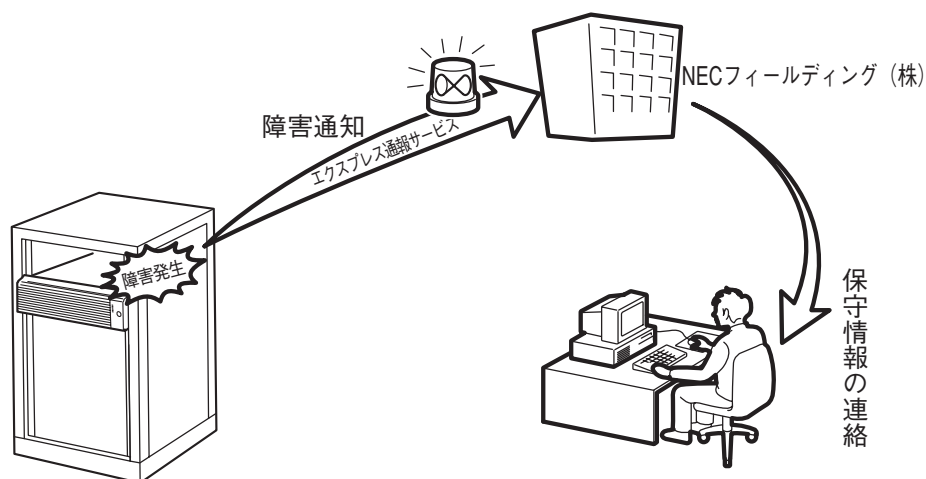
ESMPRO/ServerManagerのインストール方法や運用上の注意事項については別冊のユーザズガイドを参照してください。

# エクスプレス通報サービス

エクスプレス通報サービスは、お使いになるExpress5800/ftサーバを保守サービス会社が随時その状態を監視し、何らかの異常を検出したときにお客様に通報するサービスです。



ご利用には別途、保守契約が必要です。



エクスプレス通報サービスの契約を結んでいる場合は、別冊のユーザーズガイドを参照して、サービスを受けるためのセットアップをしてください。

また、エクスプレス通報サービスのインストールに関しては、インストレーションガイドを参照してください。

# CPUモジュールの自動再組み込みの無効化

以下の設定を行うことでCPUモジュールの自動再組み込みを無効にすることができます。CPUモジュールの自動再組み込みを無効にし、CPUモジュールの組み込みを手動で行うことでCPUモジュールの組み込み処理中に発生する無通信状態のタイミングをずらすことができます。



CPUモジュールの自動再組み込みはデフォルトで有効となっています。CPUモジュールの自動再組み込みを無効にした状態でも、再起動を行うとシステムの起動時に限りCPUモジュールは組み込み処理が発生します。



本設定は無通信状態となるタイミングをずらすもので無通信状態自体を抑制するものではありません。また、無通信状態によるタイムアウトの発生を回避するものでもありません。作業は rootで行ってください。

## CPUモジュールの自動再組み込みの無効化

1. CPUモジュールの自動再組み込みが有効であることを確認する。

```
# /opt/ft/bin/ftsmaint bringupPolicy list
```

```
CPU bringup policy is enabled.
```

2. CPUモジュールの自動組み込みを無効化する。

```
# /opt/ft/bin/ftsmaint bringupPolicy defer
```

```
Successfully deferred cpuBringupPolicy.
```

3. CPUモジュールの自動組み込みが無効であることを確認する。

```
# /opt/ft/bin/ftsmaint bringupPolicy list
```

```
CPU bringup policy is deferred.
```

## CPUモジュールの組み込みを手動で行う

1. どちらのCPU/IOモジュールがプライマリを確認する。

CPU/IOモジュール0がプライマリ → 組み込もうとするCPUモジュールのパスは1  
CPU/IOモジュール1がプライマリ → 組み込もうとするCPUモジュールのパスは0

2. CPUモジュールの組み込みを行う (CPU/IOモジュールの状態に応じて下記コマンドを実行)。

CPU/IOモジュール0がプライマリの場合  
# /opt/ft/bin/ftsmaint bringup 1

Completed bringUp on the device at path 1.

CPU/IOモジュール1がプライマリの場合  
# /opt/ft/bin/ftsmaint bringup 0

Completed bringUp on the device at path 0.

3. LEDが緑色点灯することを確認する。

CPU/IOモジュール0のステータスランプ2：緑色点灯  
CPU/IOモジュール1のステータスランプ2：緑色点灯

## CPUモジュールの自動再組み込みの有効化

1. CPUモジュールの自動再組み込みが無効であることを確認する。

# /opt/ft/bin/ftsmaint bringupPolicy list

CPU bringup policy is deferred.

2. CPUモジュールの自動組み込みを有効化する。

# /opt/ft/bin/ftsmaint bringupPolicy enable

Successfully deferred cpuBringupPolicy.

3. CPUモジュールの自動組み込みが有効であることを確認する。

# /opt/ft/bin/ftsmaint bringupPolicy list

CPU bringup policy is enabled.

cronデーモンとの組み合わせによりCPUモジュールの自動再組み込みを行う時間帯を限定することもできます。

1. /etc/crontab に設定を追加する。

(例) 毎日6:00から18:15までの間CPUモジュールの自動再組み込みを無効にする場合

/etc/crontabに以下の行を追加

```
# Defer CPU bringup at 6:00 every day
```

```
# Enable CPU bringup at 18:15 every day
```

```
06 * * * root /opt/ft/bin/ftsmaint bringupPolicy defer
```

```
15 18 * * * root /opt/ft/bin/ftsmaint bringupPolicy enable
```

2. cronデーモンの設定ファイルを反映させる。

```
# crontab _u root /etc/crontab
```

# カーネルのバージョン確認方法

ESXのバージョンとサービスコンソールのカーネルのバージョンを確認する方法について説明します。

下記の手順に従ってバージョンを確認してください。

## ESX

1. 下記コマンドをサービスコンソール上で実行する。

```
# cat /proc/vmware/version | grep VMware
```

## サービスコンソール

1. 下記コマンドをサービスコンソール上で実行する。

```
# uname -a
```

動作中のカーネルのバージョンが表示されます。

以上でバージョンの確認は終了です。



# ft制御ソフトウェアのバージョン確認方法

ft制御ソフトウェアのバージョンを確認する方法について説明します。なお、Express5800/ftサーバに装置を増設する場合など、動作中のft制御ソフトウェアのバージョンを確認する必要がある場合に実施していただくことになります。

下記の手順に従ってバージョンを確認してください。

1. 下記コマンドをサービスコンソールで実行する。

```
# /opt/ft/bin/ftsmaint -v
```

動作中のft制御ソフトウェアのバージョンが表示されます。

以上でバージョンの確認は終了です。

